

## 令和6年度第2回山陽小野田警察署協議会会議録

開催日時	令和6年11月15日（金） 午後1時30分から午後3時00分までの間	
開催場所	山陽小野田警察署 講堂	
出席者	委員	吉村委員、河口委員、石田委員、吉田委員、秋山委員、坂口委員、田邊委員  計 7人
	警察	本部長、署長、副署長、警務課長、会計課長、生活安全課長、地域課長、刑事課長、交通課長、警備課長  計10人
議題	1 警察業務の推進状況等 2 少年が加害者にも被害者にもならないための対策の推進	
<p><b>1 副会長挨拶</b></p> <p>令和6年度第2回山陽小野田警察署協議会を開催するに当たり、一言ご挨拶を申し上げます。</p> <p>本日、本年度第2回目の協議会を本部長同席のもと開催することができ、また、こうして皆さんの元気な顔を拝見することができて心強く感じるとともに、安堵しているところである。平素は署長をはじめ、署員の皆様方には、山陽小野田市の治安を守っていただき、本当に感謝している。また、委員の皆様方におかれても、寒い日が続いており、体調を崩しやすい時期でもあるので、各種ウイルス感染防止などの健康管理に留意していただきたい。</p> <p>さて、本日の協議会は、生活安全課長から諮問事項である「少年が加害者にも被害者にもならないための対策の推進」について説明をいただき、それから質疑に入りたいと思う。各委員におかれては、警察活動の更なる活性化に向けて忌憚のない意見をいただけるようお願いする。</p> <p><b>2 署長挨拶</b> 省略</p>		

### 3 本部長挨拶

省略

### 4 警察署協議会会長会議の伝達

省略

### 5 警察業務の説明等

#### (1) 警務関係

- ・ 警察安全相談受理状況

#### (2) 生活安全関係

- ・ 犯罪から県民を守る対策の推進状況
- ・ 少年非行
- ・ 人身安全

#### (3) 地域関係

- ・ 110番受理状況
- ・ 地域安全活動

#### (4) 刑事関係

- ・ 刑法犯認知・検挙状況
- ・ うそ電話詐欺認知状況
- ・ SNS型投資・ロマンス詐欺認知状況

#### (5) 交通関係

- ・ 交通事故発生状況
- ・ 交通死亡事故抑止総合対策の推進

#### (6) 警備関係

- ・ 近年の警報発表状況
- ・ 近年の大規模事故災害発生の状況
- ・ 対策

### 6 少年が加害者にも被害者にもならないための対策の推進

#### (委員)

私は少年相談員を定年の70歳まで約20年間勤めた。現在75歳であるが、少年相談員をしていた当時とは少年に対する見方や感じ方が全然違う。

昔は喫煙やシンナー吸引が全盛期で、親が子供の非行を止めるために通報や情報提供をしてくれた。しかし、今は親が通報や情報提供をしないため、情報が入ってこなくなってしまった。

少年が非行に走らないために大切なこととして、行きつくところは家庭である。

#### (委員)

少年の薬物乱用は増加傾向にあるのか。

#### (生活安全課長)

大麻使用については年々増加傾向にある。

**(委員)**

私が高校生の頃は、やはりシンナーを使用するのが非行の主流であった。

犯罪者が薬物を流通させる方法について、私たちは全く知らない。県外から持ち込まれているのか、あるいは山口県に流通拠点があるのかなど、そうした情報を防犯のために発信してはどうか。

**(委員)**

「闇バイト」という名称では、お手軽感があつて深刻な問題と捉えづらい。バイトとは言っているが、酷いものでは強盗殺人などの凶悪な犯罪に発展することもある。表現を変える必要があるのではないか。

また、少年非行の中では万引きの比率が高いと思うが、少年の万引きとして主流の手口はあるのか。

**(生活安全課長)**

闇バイトの名称は「犯罪実行者募集情報」であり、昨年、当署管内の大学において防犯キャンペーンとしてチラシの配布を行った。確かに、そのキャンペーンに参加した学生も、闇バイトについて正しく理解できていないような雰囲気が見受けられた。また、アルバイトを募集するスマートフォンアプリで「猫を探すバイト」と掲載された求人が、実は犯罪実行者募集情報だったこともある。委員が言われたとおり、実際は犯罪であり、バイトという表現方法は検討の余地があるのかもしれない。

万引少年がよく行う手口としては、商品を自分のカバンに入れたり、友達のカバンに隠してもらったりするものがある。ほかに、あらかじめ店舗で販売しているレジ袋を購入し、その中に万引きした商品を入れるという手口もある。

**(委員)**

学校でマナーやモラルを学ぶこともあるのかもしれないが、少年がそれらを学ぶべき場所は家庭だと考えている。しかし、現在は家族が皆働く世の中であり、家庭で会話があるのか疑問に思っている。子供はどうしても親の倫理観に影響されることとなる。小さなことかもしれないが、例えば子供がお世話になっても親が挨拶せずに帰ったりしてしまうと、モラルのない親の行動に子供は影響を受ける。子供は何が正しいのか分からないし、子供の間違いを誰が正すのかという課題があると思う。また、最近では少年がSNSなどで情報を収集し、ネットの知識にも影響を受けている。薬物や煙草に興味がある少年を、大人がしっかり止められるような環境も大切だと考える。

闇バイトについては、スマートフォンアプリで募集しているとのニュースを見て、とても怖く感じた。犯罪実行者の募集と称して運転免許証などの個人情報を持ちられ、犯罪を強要されるケースもあると聞いた。私は自営業で色々な商品を取り扱っているが、お客さんから防犯ガラスや防犯フィルムにしてほしいと言われることが増えた。一般家庭でも防犯意識が高まっている証拠だと思う。

**(委員)**

実効性のある取組について、不良行為をしない少年や家庭は少年サポートセンターの存在を知らないと思う。

また、警察で様々な情報発信を行っているが、デザインが堅苦しい印象を受けた。情報発信で大切なのは視覚であり、伝えたいことが分かりやすくなるようなデザインの方が良いと思う。

**(委員)**

確かに、情報発信には視覚が大切である。今の少年は、読書離れなどにより文字を読む習慣がなく、少ない情報しか見ようとしめない。

また、今はスマートフォンを持っているのが当たり前で、SNSを通じて会ったことのない人とつながったり、その人の紹介でグループに所属したりしてしまう。親は、子供がスマートフォンを介して犯罪に巻き込まれることのないよう、注意しなければならない。

子供に「犯罪は悪いことだ」と教えるだけでは不十分であり、犯罪を起こすと捕まって罪を償うことになるという怖さも、しっかり教えなければならない。そうしたことも警察から積極的に発信すると有効ではないか。

**(生活安全課長)**

子供がどんどんデジタル知識を身につけるので、親は分からないことを聞かれると、子供に任せてしまうこともあるかと思う。

少年サポートセンターについては、学校と連携し、知ってもらえるように取り組んでいるところである。

情報発信のデザインについては、今後の課題として改良していきたい。

少年にとっては家庭環境が一番大切である。もちろん学校や地域を含め、皆で子供を見守っていこうという意識も大切であり、学校と警察で少年の情報を共有する制度も活用されている。

少年の非行を防止するためには情報発信と声かけが必要であり、最初は挨拶だけでもよいので、少しずつ少年を見守ることのできる環境を作っていきたいと考えている。

**(委員)**

今は、少しでも子供に話しかけると、親が抗議してくる。見守り活動などでそのような事態になった場合、どうすればよいのか。

**(生活安全課長)**

警察や学校に連絡の上、状況を説明していただきたい。

**(委員)**

小学生と中学生の登下校時に立哨しているが、中学生になると全然挨拶しなくなってしまう。

**(署長)**

挨拶しない理由としては、恥ずかしいなどの思春期特有の事情があるかもしれない。

**(委員)**

「イジメ」は暴力や窃盗などの犯罪である場合が多く、名称だけが原因とは言わないが、闇バイトと同様に犯罪だという意識が薄くなっている気がする。

現在、小学生と中学生の不登校が増えている。今の日本は一度不登校になると復

帰するのが難しく、学校や家庭、社会に居場所がない少年が犯罪に巻き込まれてしまう。こうした問題についても、今後、皆で取り組んでいかなければならない。

## 7 警察本部長講評

罰金などの刑罰を子供にもしっかり伝えるという話について、今であれば強盗などを例に出し、それが犯罪なのだと明確に伝えるなど、対策を進めていかなければならない。

闇バイトとは知らずに申し込み、個人情報を握られた結果、犯罪行為に及んでしまう者がいることについて、申込みの時点で犯罪だと理解できるように広報していきたい。併せて犯罪に加担させられるバイトが存在していることも知らしめる必要がある。

昔、警察官を目の前に、赤信号の横断歩道を子供と渡ろうとした親を見かけ、驚いたことがある。親がルールを守っていれば、子供も自然と守るように育つと思う。

警察からの情報発信について、山口県警察のデザインは真面目過ぎて、沢山の情報を詰め込んでしまう傾向がある。限られた範囲で、できるだけ多くの情報を伝えようとするあまり、大切なことが伝わらなくなってしまう。分かりやすく、ポイントを絞った情報発信が重要であり、今後の課題と考えている。

また、情報を発信するだけで満足してはいけない。発信した情報がどれだけ見られているのか、結果を検証しなければならない。情報を発信し、それを県民が知り、行動が変わることで初めて意味がある。

昔と違い、今はネットを逃げ場にする少年が増えている。ネットを逃げ場にされると、警察はもちろん家族でも実情を把握しづらくなり、気が付くと犯罪に巻き込まれた後だったということもあり得る。少年自身にネットリテラシーを身につけてもらうとともに、家庭や周りの人が声かけをすることが大切だと考える。

## 8 意見交換・質疑応答

意見、質問等なし。